



子ども主体の授業にするには、子どもの**姿を具体的に描く(左図)**ことが大事です!そして、その具現のために**支援(右図)**しましょう!

①自ら課題に向かう



困り感:目的、場面、状況を設定しても子どもたちが自ら課題に向かいません。

伝える相手や活動の**目的を具体的に示して**、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」がより働くようにしています!



②学び方を選択する



困り感:子どもたち一人一人の実態に合わせた授業が難しいです。

子どもたちの目的に応じて、**学習方法や学習形態を選択**する場を位置付けています!



③考えを再構築する



困り感:「教える」以外にどのような支援をすればいいのでしょうか。

内容や英語表現が、相手意識や目的意識にそっているのか、「**気付きを促す言葉かけ**」を大切にしています!



「子どもたちに答えや、やり方を教える」から、
『**子どもたちの思考がめぐるように支援する**』へ
指導観を転換させましょう。